

令和4年度 青果物販売情勢について

令和4年3月16日（水）現在

【 果 実 】

<あんぼ柿>

シーズン終盤で大きな動きなく相場は保合大勢。

蜂屋柿 230gトレイ 特秀 4L 430～ 秀 4L 400～

【 野 菜 】

<きゅうり>

各産地潤沢入荷が見込まれるが、再び気温が低下するため、急減に警戒しながら相場については弱含み程度となる見通し。 @A 1,500～

<大玉トマト>

西南暖地産の増量で春作の本格化に向けて売り込みが始まってくる見込み。相場は弱保合となる見通し。

@AM 1,300～

<いちご>

入荷量が多く荷動きはかなり停滞しつつあることから、当初見通しより早めの動きで相場を一段下げての販売スタートが見込まれる。 @2L 330～

<にら>

北海道市場は道産が潤沢入荷となり、京浜市場は関東産が増量を見込み、荷動きを止めないため今後は相場を弱める見通し。 @AL 70～60

<春菊>

日中の気温上昇に伴い黄変の指摘が増えてきており、他葉菜類は潤沢なため相場は弱保合で荷動きを止めないようにする見通し。 @A 70～50

<しいたけ>

東北各産地で連休にかけて増量が見込まれており、今後はさらに厳しい販売環境となる可能性が高く、荷を動かすため相場は弱保合となる見通し。 @AL 100～

<ねぎ>

越冬作中心の入荷だが、春作型の入荷も少しずつ増量となる見込みから再度荷動きを回復させるために相場は弱保合の見通し。 @AL 1,500～